

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第32週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第32週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第32週（令和4年8月8日から令和4年8月14日まで）

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）RSウイルス感染症 3）感染性胃腸炎でした。

手足口病の定点当たり患者報告数は4.38人と前週（5.71人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.18人と前週（4.09人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.47人と前週（2.34人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。

今週のトピックス

“夏季にもかかわらずインフルエンザが発生しています！”について取り上げました。

川崎市におけるインフルエンザの患者報告は、新型コロナウイルス感染症の流行開始以来ほぼありませんでしたが、今年は夏季にもかかわらず、令和4年第29週（7月18日～24日）から4週連続で発生がみられます。インフルエンザは、神奈川県だけではなく、大阪府や沖縄県などでも報告されていますが、本市のリアルタイムサーベイランスでは、A型の報告が中心です。

インフルエンザの感染経路は主に飛沫感染であるため、新型コロナウイルス感染症と同様に、呼吸器症状のある方との濃厚接触や、換気の悪い空間での長時間の滞在を避けることが、感染を防ぐためには大切です。また、周辺でのインフルエンザの発生状況に注意し、咳やくしゃみ等の症状がある場合は、感染を広げないために咳エチケットを徹底しましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

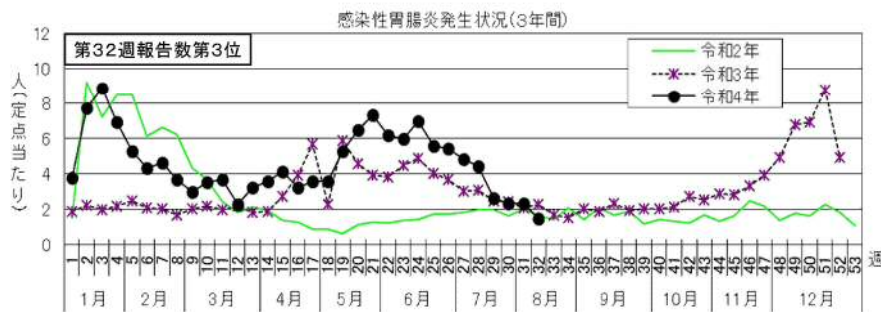
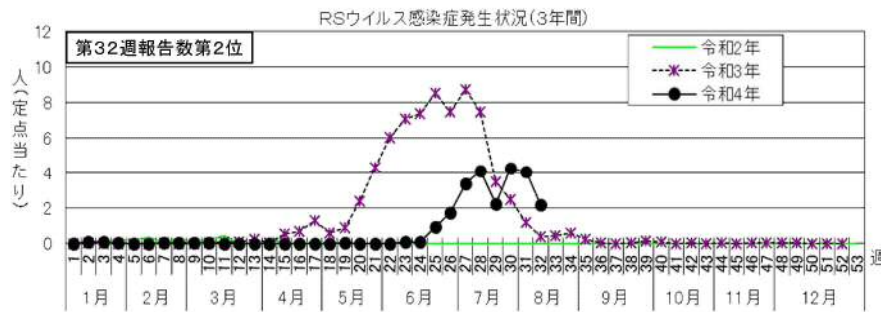
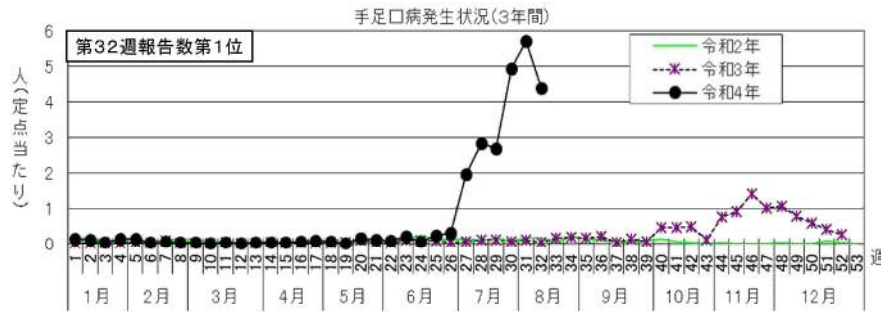
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年8月8日（月）～令和4年8月14日（日）〔令和4年第32週〕の感染症発生状況

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) RSウイルス感染症 3) 感染性胃腸炎でした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は4.38人と前週（5.71人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.18人と前週（4.09人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.47人と前週（2.34人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



夏季にもかかわらずインフルエンザが発生しています！

川崎市におけるインフルエンザの患者報告は、新型コロナウイルス感染症の流行開始以来ほぼありませんでしたが、今年は夏季にもかかわらず、令和4年第29週（7月18日～24日）から4週連続で発生がみられます。インフルエンザは、神奈川県だけではなく、大阪府や沖縄県などでも報告されていますが、本市のリアルタイムサーベイランスでは、A型の報告が中心です。

インフルエンザの感染経路は主に飛沫感染であるため、新型コロナウイルス感染症と同様に、呼吸器症状のある方との濃厚接触や、換気の悪い空間での長時間の滞在を避けることが、感染を防ぐためには大切です。また、周辺でのインフルエンザの発生状況に注意し、咳やくしゃみ等の症状がある場合は、感染を広げないために咳エチケットを徹底しましょう。

他の人にうつさないための正しい咳エチケット

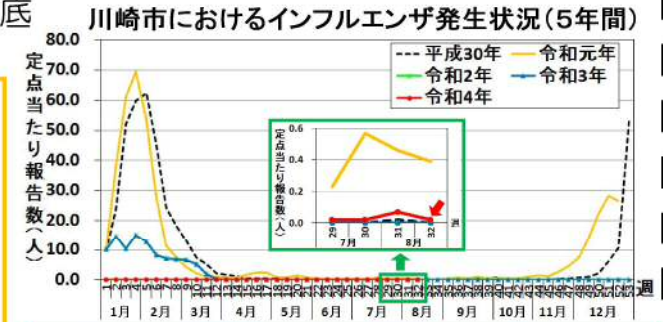
マスクを正しく着用する

咳やくしゃみをする時は、ティッシュ・ハンカチ、上着の内側や袖などで口や鼻を覆う

悪い事例

何もせずに咳やくしゃみをする

咳やくしゃみを手でおさえる



川崎市感染症情報発信システム（KIDSS）のリアルタイムサーベイランスによると、第29週から第32週までにインフルエンザの報告が13件あり、内訳はA型が12件、B型が1件でした。